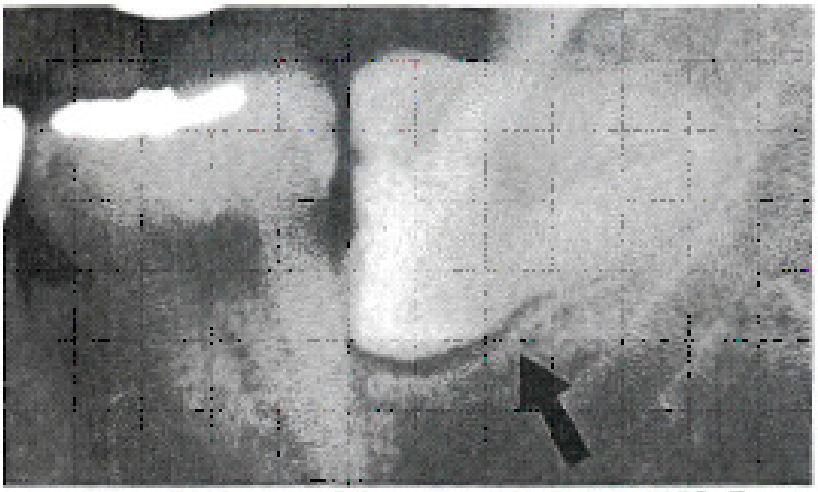
虫歯、歯周病の原因に

斜めや横に生える「親知らず」

歯並びにも悪影響

親知らずの歯は思春期以降に生えてきて、抜いた方がいいのかどうか悩む人は多い。昭和大学歯学部（東京都）口腔（こうくう）外科の新谷悟教授は、親知らずは腫れや痛みを起こすほか、虫歯や歯周病の原因にもなると指摘する。



親知らずが生えた人の歯のレントゲン写真。親知らず（矢印）が横に向かい左の健康な歯を圧迫している（新谷悟昭和大歯学部口腔外科教授提供）

20歳前後に

親知らずは、20歳前後に生えてくる第三大臼歯。上下左右4本あるが、あごが小さくなった現代人では、ほとんどが斜めや横に生えてくる。

「こうした生え方では、食べ物をかむという歯本来の働きはありません。それどころか腫れや痛みのほか、歯列乱れ、歯槽膿漏などを招いて虫歯や歯周病を起こす危険性があります」

特に注意したいのは妊娠期の女性だ。妊娠するとホルモンのバランスが崩れて歯周病を起こしやすくなる。加えて、つわりがあるので歯のブラッシングも的確にできないため、より歯周病を起こす危険性が高まるという。

「親知らずのところに起こる歯周病が智歯周囲炎といいますが、時には高熱を発する場合もあります。診断にはレントゲン検査、治療には抗菌剤や鎮痛剤を用います。これらの検査や治療が妊娠に及ぼす影響も考えると、妊娠前に親知らずを抜いておいた方がいいのです」

抜歯は20～40分

抜歯に際しては、生え方によって複雑な手技が必要なので口腔外科を受診するとよい。

「親知らずの根っこの状態によって手術時間は異なりますが、普通は1本あたり20～40分かかります。1本抜いたら、2週間ほどの間隔を置いて順次抜いていきます」

抜歯後、2～3％の人で、下あごから下唇にかけての神経が障害されてしびれが生じるケースがある。「ただ、ほとんどの場合、しびれは数カ月から1年ほどで改善します」と新谷教授。抜歯した日は、出血が早く止まるように口腔内にはうがいをしないなど、運動、飲酒、入浴などの一般的な注意点を守ることが多く、考えられる合併症まで説明しておけば「死」

女性は妊娠前に抜いておこう

昭和大学歯科病院の所在地は、〒142-8666 東京都大田区北千束2-1-1。電話03（3784-8111）代表。